

# 筑豊・田川 デジタル アーカイブ

無料で閲覧が！

伊能忠敬の歩いた道や炭鉱、鉄道の歴史、昔の地図など近世・近代の田川の歴史コンテンツがインターネットでどこでも閲覧することができます。利用登録は不要です。



石炭を運搬する川ひらた (出典:田川市史中巻)

筑豊田川デジタルアーカイブ 検索

## 伊能忠敬企画を開催

伊能忠敬企画を「ふくちのち」で開催。関連書籍も展示しますので2階和室にぜひお立ち寄りください。



一身二生、  
五十にして  
天命を知る。

### 伊能 忠敬



(伊能忠敬像 / 伊能忠敬記念館所蔵)

「人は夢を持ち前へ歩き続ける限り、余生は足りない」という言葉を残した伊能忠敬。地球一周分を歩き、驚くべき精度の日本地図を作り上げ、偉業を成し遂げます。没後200年にあたる今年、再びその足跡と生き方が人々の心を動かしています。傾きかけていた伊能家を立て直し終えた忠敬が息子に家督を譲り、19歳年下の天文学者・高橋至時に師事したのは50歳の時。五十にして天命を知った忠敬は、事業家から測量家へと身を転じ、一生のうちに二つの人生を生きるような、まさに「一身二生」の人生を全うしました。50歳を過ぎて新境地を開拓し、大事業に挑み、さらに充

実した人生を生き抜いた忠敬。一步一步を積み重ね、壮大な目標を成し遂げた実直な忠敬の生き様と情熱は、夢を追うすばらしさを今の私たちに語りかけています。夢は叶うか叶わないかではなく、追うか追わないか。人生100年時代の今、だれもに「一身二生」を歩むチャンスが訪れています。



### 福智町長 嶋野 勝 町長



人生を支え糧となってきた本、毎日30分の読書を欠かさない町長。

名 刺一枚でどこでも行ける会社、夢を追いかけられるような仕事に就きたいと、法政大学卒業後、山一証券に入社。3年たったとき父親が倒れたと連絡を受け、悩んだ末、会社を辞めて家族と帰省しましたが、父親は仮病だったそうです。そこで、仕事がなかったので、学生に勉強を教えようと塾を始めました。最初の生徒は4人、翌年は25人、全盛期は250人の生徒を抱えるまでの塾に成長しました。「生徒には体当たりで厳しく接した。夢を持つことの大切さを常に伝えました。人を変え、町を変え、田川を変えたいと真剣に思っていた」と振り返る嶋野町長。塾でできることに限界を感じ、教育長を務めたのち町長に挑戦して現在2期目。「子どもたちには無限の可能性がある。夢を持たせるのが大人の使命」だと人生一貫して思ってきました。「子どもが持つ夢や希望は、大人次第、子どもたちが故郷を誇りに思うにはまず大人がそう思えなければならない」と嶋野町長。「だからこそ、私は夢を持ち続ける」と力を込めました。

可能性に挑む。  
子どもに志を、  
大人に夢を。



塾長時代を振り返り、子どもたちや夢について胸中を語る嶋野町長。



マレーシアでカードを使っている計量の仕方を教えている西中さん(写真右)。

あきらめない。  
投げ出さない。  
怒らない。

### 海外シニアボランティア 西中 純子さん(上野)



ピザ作りやパン作りも得意な西中さん。セルビア共和国でも調理をコンテンツにした自立支援を進めています。



国際協力機構(JICA)のシニアボランティアでセルビア共和国への派遣が今年の夏に決まった西中さん。定年退職後「目的をもって人生の余暇時間を過ごしたい」と海外ボランティアに挑戦。障害者の自立と人権向上のため、マレーシアで2年間、通所施設の職員に指導と支援を行ってきました。「あきらめず、投げ出さず、怒らずに国のモデルになるよう施設を支援していきたい」とセルビアでは通所者の収入向上につながるような企画を立案。「年だからと理由をつけて挑戦しなかったら何も始まらないし、世界も広がりません。帰国後には障害者の余暇時間をサポートする仕事につきたいです」と将来を見つめ、今を生きています。



### JICA (国際協力機構)

日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を担うJICA。「信頼で未来をつなぐ」というビジョンを掲げ、海外青年協力隊や海外シニアボランティアなど世界約150カ国に派遣しています。